

I. 以下の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

今日洋の東西を問わず、文明の混迷状態が起っていること、その本体は文明の基底にある経験そのものの独立性が脅かされ、空無化されるのではないか、という懸念である。しかしそれに対しては、さまざまな悲観的な見方が可能であるにもかかわらず、僕としては、こういう文明の膨大な機械化にしても、種々のイデオロギー^(註)の横行にしても、根本は人間経験から派生し奇形化したものであって、結局は原初的な経験を自覚しなおすことによって、問題を正しい位置に戻すという平凡な努力以外には何もないと思うのである。それとともにこの経験の中に現われてくるものを、外面的な力に押されて軽視したり忘れたりしないことである。そしてすべては自己の経験に忠実であろうとする意志の問題となる。経験は主観的ではないかという疑問は当然提出されるであろう。しかし経験に徹しようとする時、そこに現われてくるのは^(ア)真の客観性、主体的には無私ともいえる精神である。自己の経験をある程度以上深めると必ず起ってくることは他の人間の経験との一致を期せずして知らされることである。それが同時代の人間であることもあるし、古い時代の人間であることもある。また同国人であることもあるし、他国人であることもある。文化の統一性ということも、内外文化の交流ということも、伝統の継承ということも、その時初めて問題となり、実質的に可能となる。不思議なことに、生活の場に本当に下ってくると、外国と日本との距離は、本質的には、非常に小さくなってしまふのである。人間のぎりぎりの条件というものは普遍的なものである。日本から来る雑誌など見ていると、農民、小学教員、下層官吏など、生活の苦しい条件に密接している人々の手記が間々あり、それが僕を非常に感動させる。またそれが、外国の民衆の生活の条件とどんなに本質的に近いかに驚く。しかもそれは正真正銘の日本人の生活なのである。日本の風土、環境、その感情の影が深く刻みこまれた生活なのである。それが充実し、そこに喜びと悲しみが本当に味わわれ、それが一つの決定的な思想的表現をとる時、それはすべての外人に、真剣に生活している外人にすぐ理解されるであろう。否それより前に日本人自身によって理解され、我々に自覚と誇りと、また新しい問題をあたえるであろう。逆にそれは我々に外国を理解させる鍵ともなるであろう。

真剣に生きる人には、それぞれの環境で、それぞれの苦悩とそれぞれの努力とそれぞれのささやかな喜びがあったのである。さまざまな工夫や改革や、さらに革命や進歩はその生活の内面に根ざしていなければならない。その意味でヨーロッパの社会には、資本主義国のそれであれ、社会主義体制のそれであれ、日本人の生活が組織され、もっと合理的になるために学ぶべきことが多々あると思われる。実体は生活そのものであり、その意味で主客転倒が起ってはならないであろう。

ヨーロッパ文明が我々にもたらしたものは、単なる技術や知識だけではなく、その技術や知識になければならない生活の理念であった。僕は日本人、ことに生活条件に密接していて、苦しい生活を営む人々の中に、普遍的な生活の典型が現われているを見た。それではヨーロッパの生活理念などとり入れなくても、よいのではなからうか。しかし、日本が国際的な場で生きて行くためには（僕はこれを有効性の意味からだけ言っているのではない）、それを採用しなければならないし、現に採用しつつある。そこに多くの変化と混乱とが生ずるのは当然であるが、もし生活そのものを尊重し、そこに重点を置くならば、外面的には同じ混乱であっても、それは決して単なる混乱に陥らないであろう。それは十分に理解しうる混乱にほかならな

いのである。あらゆる生活に避けることのできない混乱にほかならないのである。現代はヨーロッパ文明が事実上世界文明となってしまった時代であり、それ無しには一国は生きて行くことが出来なくなっている。一国民の文化ということがそういう根本的な条件の下に変化・適応して出て来なければならない。それこそ各国民の創意と工夫とが要求されていることであろう。問題は自己の生活とその経験とが新しい条件の下に予測を許さぬ試練を受けているのである。嘗々と生活している民衆、そこからすべては出てくるであろうし、また本当の尊敬を世界に払わせるであろう。問題は無限にある。言うまでもないことである。しかし(イ)この一点が我々の生活の中で確保できれば、すべての問題は意味のあるものとなる。思想というのも、それ以外のものではありえない。

(注) イデオロギー：思想傾向・考え方。

(森 有正「ひかりとノートル・ダム」『遙かなノートル・ダム』(筑摩書房、1967年) 所収。但し、問題作成にあたり随意抜粋し、適宜修正を加えてある。)

問1. 下線部(ア)の「真の客観性」とはどんな意味内容か。著者が「生活」と結びつけて語っている内容をもって言い表しなさい。50字以内で解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問2. 著者は、日本が国際的な場で生きて行く上で、外国を理解できるようになるために、また、外国から理解されるようになるためには、何が根本的に大切であると考えているか、100字以内で解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問3. 下線部(イ)の「この一点」とはどんな内容のことを指しているのか。50字以内で解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

II. 以下の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

標準的な経済学では、完全合理的な人間が仮定され、このような人間観にもとづいて理論が展開されている。完全合理的な人間とは、知覚、注意、記憶、計算、判断などの脳や心が行なう認知作業に関して完全な能力をもち、そのような能力を用いて与えられた状況を完全に把握し、その状況のもとで最適な行動を選択する人のことである。このような人間に関する仮定をめぐって、以下のような2つの実験が行われ、以下のような結果をえた。

(実験1)

いま、100人のグループに対して、各人に1以上100以下の好きな整数を1つ選んでもらい、全員の数値の平均値の $\frac{2}{3}$ に最も近い数を選んだ人が勝者であるというゲームを行うものとする。このゲームに勝つために、あなたはどの数字を選ぶだろうか。

この問題では、他の人がどのように考えているのかということを合理的に推測しなければならない点に、その難しさがある。この推測が適切にできれば、その人は合理的であるといえるだろう。

実験の結果、実際に回答した数字の平均値は回答者群別に25～40であり、最も平均値が小さい数字15～20を選んだグループは優秀な理工系の大学の学生たちであった。しかし、もしすべての人間が完全に合理的

だと仮定すると、これらの回答は正しくない。

この問題の答えは、こうである。もし全員がランダム（無作為）に数字を選んだならば、その平均値は50となる。そこで、その $\frac{2}{3}$ に最も近い整数を考えると、33となる。しかし、もし全員が同じように判断するとすれば、このゲームに勝つためにはさらに (1) (2) が候補になるだろう。しかし、ここでも全員が同じ推論をする可能性があるので、さらにその $\frac{2}{3}$ に最も近い整数 (3) (4) でなければゲームには勝てない。しかし、再び全員が同じことを考える可能性があるので、さらに (5) (6) を選ぶことになるだろう。この思考プロセスを続けて行くと、さらに数字は (7) (8) , (9) (10) と続いて行くことになる。そして、最終的には (11) (12) でなければ勝者になれないことがわかる。このように、もしすべての人間が完全に合理的だと仮定するならば、全員が同じ数字を提示することになり、全員が勝者となる。

(実験2)

次のように置かれている4枚のカード E, K, 4, 7 があり、一方の面にはアルファベットが書いてあり、他方の面には数字が書かれているとしよう。いま、「母音が書いてあるカードの裏には偶数が書かれていなければならない」という規則が成り立っていることを確かめるためには、どのカードの反対側の面を確認する必要があるだろうか。

E K 4 7

この問題は、心理学者ウェイソンによって考案された問題で「四枚カード問題」と呼ばれている。この問題をめぐって、これまで様々な被験者を対象として数多くの実験がなされたが、多くの場合、正解率は10%以下であった。そして、その典型的な回答は、カード E のみを選ぶというものであった。しかし、もし人間が完全に合理的だとすれば、この選択は誤りである。

この問題の正解は、論理学でいう対偶に関する規則を適用すれば容易にわかる。「P ならば、Q である」という命題があるとき、「Q でないならば、P ではない」という命題を対偶という。そして、もしもとの命題が真であれば、対偶命題も必ず真であり、逆に対偶命題が真であれば、もとの命題も真となる。これをいま扱っている問題に適用すると、命題「(13)」の対偶は命題「(14)」となる。それゆえ、完全に合理的な人間の回答は (15) をめくって反対面を確認するということになる。

(友野典男著『行動経済学—経済は「感情」で動いている』(光文社新書、2006年)を参考にして問題文を作成した。)

問1. (1) ~ (12) に当てはまる数字を解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (1) ~ (12) にそれぞれマークしなさい。ただし、解答が1桁の値になる場合は十の位に 0 (ゼロ) をマークしなさい。

問2. (13) (14) (15) に当てはまる最も適切な文章をそれぞれ下記の選択肢から選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の解答欄 (13) (14) (15) にそれぞれマークしなさい。

〈 (13) の選択肢〉

- 1 カードの一方の面に母音を書いてあるならば、他方の面には奇数が書かれている。
- 2 カードの一方の面に奇数が書いてあるならば、他方の面には母音が書かれている。
- 3 カードの一方の面に母音を書いてあるならば、他方の面には偶数が書かれている。
- 4 カードの一方の面に偶数が書いてあるならば、他方の面には奇数が書かれている。

〈 (14) の選択肢〉

- 1 カードの一方の面に偶数が書かれていないならば、他方の面に奇数が書かれていない。
- 2 カードの一方の面に母音が書かれていないならば、他方の面に偶数が書かれていない。
- 3 カードの一方の面に母音が書かれていないならば、他方の面に奇数が書かれていない。
- 4 カードの一方の面に偶数が書かれていないならば、他方の面に母音は書かれていない。

〈 (15) の選択肢〉

- 1 (カード K と E) 2 (カード E と 4) 3 (カード 4 と 7) 4 (カード E と 7)

問 3. 標準的経済学における人間像に関して、これら 2 つの実験から、何がいえるのか。100字以内で解答用紙 B の所定の欄に記入しなさい。

Ⅲ. 以下の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

最近、所得格差についての議論をよく聞くと思う。しかし所得の格差は、その測りかたでずいぶんと結果も違ってくことに注意しなければならない。たとえば通常、所得格差は世帯（家族）単位で報告されるが、これは個人単位で見た格差と乖離することがある。

実は日本では世帯形成のあり方が1980年代からこのかた、大きく変わってきた。1980年代には4人世帯が最も普通の世帯であった。しかし、90年代では、2人世帯が最も多く、次に単身世帯が多くなっており、この傾向は現在も続いている。そして、このように世帯規模が変化すると、世帯所得の不平等の度合いと人々の生活水準の格差の間に乖離が生じてくるのである。

世帯形成のあり方の変化と所得格差の関係を、例を使って説明しよう。最初は世帯には三世代同居という形態のみがあったと仮定しよう。75歳で所得170万円の親、50歳で所得600万円の子、20歳で所得220万円の孫がいるとする。日本中すべてこの世帯であれば、所得 (16) (17) (18) 万円の三世代同居世帯だけで、世帯間の所得格差はない。いま年金が引き上げられ、75歳の親の年収が300万円になり、介護保険も充実したとしよう。このとき、親が独立して生活することを選んだとすれば、年収が300万円の老人世帯と所得 (19) (20) (21) 万円の世帯が発生し、世帯は二種類に分かれる。同時に所得階級も二極化し所得格差が拡大する。

さらに若者の雇用条件が好転し、20歳の孫の所得が250万円になり、単身生活を始めたとする。このときは、所得600万円の子の世帯、孫の所得250万円の単身世帯、親の所得300万円の老人世帯の三つに分かれ、所得300万円以下の世帯の比率は、二種類の世帯しかなかったときの (22) (23) %から約67%へと増加し、貧困層が拡大したようにも解釈できる。

バブルの頃には、東京の私立大学の競争率が軒並み上昇した。これは、団塊ジュニアが大学受験期を迎えたというだけでなく、日本全体で所得が高まった結果、地方から子供に仕送りすることが経済的に可能になり、東京の私立大学を受験させる親が増えたことを背景にしていた。逆に、「パラサイト・シングル」と呼ばれる「親と同居して結婚しない若者」をかかえる同居世帯の存在は、若者の雇用条件が悪く、単身生活ができないから同居を選ばざるをえないという側面も大きい。たとえば親の所得が600万円で子供の所得が200万円の別々の世帯だけからなる社会を考えると、この社会は所得600万円と200万円の世帯所得格差の存在する社会になるが、子供の所得が皆100万円に低下して貧しくなり、やむをえず親と同居すると、この社会は所得 (24) (25) (26) 万円の世帯だけの、格差の無い社会となる。

もう一つ世帯所得格差のあり方に大きな影響を与えるのは、女性の働き方の変化である。低所得男性の配偶者は、生活水準を高めるために働くのでその世帯は共働き世帯となり、高所得男性の配偶者は働かなくてもよいのでその世帯は専業主婦世帯になる、という傾向が日本では一般的だった。たとえば夫の所得が600万円、400万円の二種類の夫婦世帯があるとしよう。この二種類の世帯のうち妻が働く確率が低いのは夫の所得が (27) (28) (29) 万円の世帯になるというのが、上述の傾向である。しかしながら、男女雇用機会均等法の施行(1986年4月)や、技術革新によって肉体的な能力よりも知識能力が求められるようになってきた結果、男女の賃金獲得能力の差が小さくなってくると、優秀な女性が能力を発揮する機会も増えてくる。高所得男性の妻が専業主婦ではなく、高所得を得て働くというケースが増えてきている。さらに、少子化で育児負担の軽減、電化製品の発達、家事代行サービスの発達で、高所得男性の妻もパート労働で賃金所得を得る人が増加している。高所得男性の妻が働くようになると、世帯間の所得格差は拡大する。低所得層は共働き、高所得層は片働きという傾向があれば、個人間での所得格差に比べて、世帯間での所得格差は小さくなる。(ア)たとえば上であげた夫の所得が600万円と400万円の世帯だけからなる社会を考え、かつ前者では妻は専業主婦(片働き)、後者では妻は働く(共働き)としよう。そして妻が働くときに得られる所得は夫のその半分でとすれば、夫の所得が600万円の世帯の所得は (30) (31) (32) 万円、夫の所得が400万円の世帯の所得は (33) (34) (35) 万円となる。(イ)しかし、高所得層においても共働きということが増えてくれば、世帯間の所得格差は拡大していくのである。

(ウ)このように現在の日本で観察されている家族のあり方の急激な変化は、世帯所得格差の推移を単純に比較して、不平等の度合いの拡大の有無を議論することを非常に難しくしている。

さらにこうした家族のあり方の変化と同じく、給与の支払い方の変化や人口の高齢化も、不平等の度合いの測定に影響を与える。給与の支払い方の変化が見かけ上の所得格差に与える影響を、これもまた仮設例を用いて説明しよう。仮に、すべての日本人の給与が年間900万円であったとする。ある年から、給与の支払い方が変わって、日本人の半数は、西暦の奇数年にだけ1800万円の給与を受け取り、偶数年の給与はゼロであるような二年契約制度をとり、残りの半分の日本人が偶数年に1800万円を受け取り、奇数年はゼロである

という給与の支払い契約をしたとする。この場合、二年を平均した年間所得は (36) (37) (38) 万円である。しかし、単年度でみれば、1800万円の所得の人と所得ゼロの人が発生するという不平等社会に移行したようにみえてしまう。しかし中身は単に給与の支払い形態が変化しただけであるから、格差拡大でもなんでもない。この場合に格差を是正するような社会保障制度の拡充や税制の改正を行うことは、かえって人々の行動に歪みをもたらしてしまってマイナスの効果のほうが大きい。

この例は極端に見えるかもしれない。しかし、人口の高齢化の影響は本質的には給与の支払い形態の変化の効果と同じである。単純化のために、人生は働いて所得を稼ぐ就業期と、貯金を引き出して生活する引退期の2期間とする。すべての人は就業期に2億円の所得を得て、そのうち1億円は引退期の生活のために貯蓄しておくとしよう。仮に、人口が100人で、寿命がまだ短くて引退期の人口が20人しかいない社会を考えると、この社会で所得ゼロの人の割合は (39) (40) %である。しかし豊かになり、人口は200人に増え、寿命も伸びて引退期の人口も60人になると、所得ゼロの人の割合は (41) (42) %になる。寿命が伸びると、引退期で所得がない人も増えてきて、不平等の度合いが増すように見える。しかし、それは所得格差の測り方が悪いだけである。引退した人たちは、最初から貯蓄して引退後の生活に備えている。別に勤労所得がなくても、貧困者が増えたわけではない。人口構成が大幅に変わる際に、その年だけの所得をもとに不平等の度合いを測っていると大きな間違いをすることになる。

(大竹文雄『経済学的思考のセンス』(中公新書, 2005年)を参考にして問題文を作成)

問1. 文中の (16) (42) に入る適当な数字を、解答用紙A(マークシート)の解答欄 (16) (42) にそれぞれマークしなさい。ただし、答えが解答欄の桁数よりも小さな桁数の数値になる場合は、百の位、十の位に0(ゼロ)をマークしなさい。

問2. 以下の設問に答えなさい。解答は解答用紙Bの所定の欄に160字以内で記入しなさい。

下線部(イ)で述べられていることを、下線部(ア)に述べられているケース(夫の所得が600万円であれば片働きとなり、400万円であれば共働きとなる)と、夫の所得にかかわらず(夫の所得が600万円でも400万円でも)両方とも共働きになるケースとで世帯所得格差がどう違ってくるかによって示しなさい。どちらのケースでも妻が働くときに得られる所得は夫の半分とする。

問3. 下線部(ウ)にあるように、個人の所得には変化が無いが、あるいは増えているにもかかわらず、世帯単位で見た所得格差を拡大する要因は、世帯のあり方の変化である。そうした世帯のあり方の変化は何か。その種類の世帯が増えると世帯所得格差も大きくなるような世帯類型を文中の「～世帯」という言葉を使って、解答欄Bの所定の欄に順不同で記入しなさい。

平成19(2007)年度 商学部 問題訂正

科目	誤	→	正
論文テスト	<p>P.6 下から2行目および1行目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遇数年 	→	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偶数年